

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

洪水に発電ダム活用へ

防災にタイムライン策定し、事前行動計画を

今年8月3日から4日

にかけ、上川北部を集中豪雨が襲いました。幌加内町及び名寄市で173ミリ、士別市でも130ミリの雨が降り、床上浸水や農地の冠水など、大きな爪痕を残しました。また、広島県での土砂災害では多くの犠牲者が発生し、礼文町でも2名の方が犠牲になる災害が起こりました。

地球温暖化などにより、ゲリラ豪雨が頻繁に発生す

る今日、災害に対する警戒を怠ってはならないことを教えてくれました。

私は、予算特別委員会の各部審査において、総務部に対し、「減災に向けた取り組み」として、「ハザードマップ策定の支援」、「タイムライン(事前防災行動計画)の策定」、「避難勧告のあり方」、「ダムなどの活用」、などについて質問しました。

ホットライン構築

道からは、「避難勧告すべき市町村長と振興局長で、ホットラインで直接連絡」ダムなどの活用では、「タイ

ムラインの中で利水ダムについての活用を検討」との答弁を得ました。

なお、質問と答弁の主なものは次のとおり。

問 ハザードマップ未策定市町村への支援は。

答 地域ごとの課題を把握し、より実効ある避難対策促進に向け支援する。

問 避難勧告の助言については、当該市町村長とのホットラインの構築を図ってはどうか。

答 今後、振興局長と市町村長とが、より緊密に連携を図り、市町村における防災・減災の取り組みを支援する。

問 発電ダムなどの利水目的のダムも治水の役割を担う仕組みづくりをすべきではないか。

答 利水ダムなどはタイムラインの中で検討され、北海道開発局との情報共有を図り、国や市町村関係機関と連携した効果的なタイムラインについて検討する。

知事は不誠実な答弁

また、知事総括質疑においては、1. 地域振興条例の見直し、2. JR北海道の安全管理、3. 人口問題、4. 原発について、などを高橋知事に直接質問してきました。

問 川内原発が規制委員会の新基準に適合したことをもって、「安全」が確保されたと考えているか。

答 常に規制以上の安全レベルの達成を目指すことにより、安全向上に向けて不断に取り組むべきものと考えている。

問 川内原発の再稼働で、国は地元同意を従来と同じ考えで十分としているが、UPZ圏内の意向も尊重すべきではないか。

答 再稼働にあたっては、国が関係自治体へ説明すべきであり、責任を持つて対応すべきだ。このように知事からは、真摯な答弁を得るには至りませんでした。

予算特別委員会の知事総括質疑で、人口減少問題や原発再稼働について、知事の考えを質問(10月1日)



第三回定例道議会報告(9月9日~10月3日)

第3回定例道議会は、9月9日(火)に開会、平成26年度道補正予算、道議定定数条例改正案、「北海道電力の電気料金値上げ幅の見直し等に関する意見書」、「土砂災害防止対策の推進に関する意見書」などを可決し、10月3日(金)に閉会しました。



真摯な答弁を避ける高橋知事

円安で格差拡大

安倍政権の、いわゆる「アベノミクス」に基づく円安誘導策、物価上昇誘導策によって、道民生活や中小企業経営が圧迫される状況が生じています。厳冬期前にしての燃油価格の上昇、加えての電気料金的大幅値上げ方針によって、さらに影響が拡大します。

電力再値上げで支援

北海道は、市町村が実施する「福祉灯油」への電気料金対応の加算措置への支援や中小企業向け制度融資の医療機関等への活用、中小企業への省エネコンサルタントの派遣等の対策を並べましたが、いずれも小粒であり、地域との連携による実効性のある対策を求める論議を行いました。

道内でも局地的集中豪雨等の気象災害が相次いでい

ます。広島市や礼文町での土砂災害に際して表面化した、道内での土砂災害警戒区域の指定遅れなどが課題となり、道としても対策を急ぐよう求めました。

また、自治体から反発の強い道州制法案の扱いや、不安が根強いカジノを含む総合型リゾート構想(1R)への対応で、高橋知事が推進方向と見える動き方をしていることについて、認識や対応を質疑しましたが、知事は自らの姿勢を明確にすることなく「幅広い観点からの論議が必要」との答弁が繰り返されました。なお、知事は、体調不良を理由に本会議を2日間欠

依然厳しい道財政

席しました。

補正予算は、道投資単独事業費51億円など一帯計78億700万円、特別会計1億600万円。これで、平成26年度道予算は、一帯計2兆7278億円、特別会計6115億円の合計3兆3393億円となりました。また、平成25年度北海道の一帯計2兆7278億円形式収支で43億4100万円、実質収支で28億1600万円の赤字。地方公共団体財政健全化法に基づく健全化判断比率は、実質公債費比率が21.3%、将来負担比率が320.6%と、依然として厳しい状況が続いています。

採択された決議・意見書

●北海道電力株式会社の電気料金値上げ幅の見直し等に関する意見書 ●土砂災害防止対策の推進に関する意見書 ●東日本大震災からの復旧・復興のための財政支援の継続等を求める意見書 ●魅力ある地方創生へ向けた施策の推進を求める意見書 ●軽度外傷性脳損傷に係る周知及び適切な労災認定に向けた取り組みの推進を求める意見書 ●私学助成制度に係る財政措置の充実強化に関する意見書 ●義務教育未修了者の実態把握と教育環境の整備を求める意見書

議員定数を3名削減!

道議会では、議員定数のあり方を検討していましたが、今議会において、104名の定数を「3増6減」し、101名とする条例案を可決しました。

この見直しによって、1票の格差は3.82倍から2.81倍に改善されます。

しかし、人口が集中する札幌の定数や人口減少が続く地方の声をどう吸い上げるかなど、大きな課題も山積しており、今後このような課題について、議論することとしています。

◆定数を減らす選挙区

- ・後志管内 (3名→2名)
- ・胆振管内 (2名→1名)
- ・釧路管内 (2名→1名)
- ・函館市 (6名→5名)
- ・留萌市 (1名→0名)

留萌管内と合併

- ・紋別市 (1名→0名)
- オホーツクと合併

◆定数を増やす選挙区

- ・千歳市 (1名→2名)
 - ・岩見沢市 (1名→2名)
 - ・オホーツク管内 (2名→3名)
- オホーツク管内は、定数を増やした上で、オホーツク東(1名)とオホーツク西(2名)に分割

写真で振り返る北口道議の活動記録(7月〜9月)



JA北海道中央会などと意見交換(7月17日)



TPP合意断固反対全道農民集会に参加(7月3日)



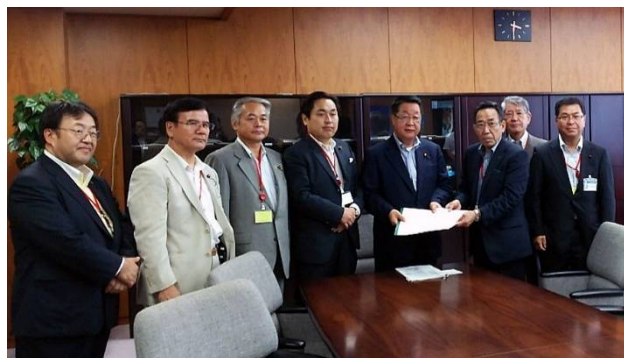
民主党会派による中央要請行動(7月25日)



ソチ五輪報告会に参加(7月23日)



ゴーク米国首席領事と懇談(8月4日)



林活議連による中央要請行動(7月30日)



まなびとくらしのフェスティバル(9月27日)



東川の松家さん宅で産業用大麻を視察(9月3日)



←雨の中で道政報告青空の集い(7月26日) 全国フットパスinかみふらの(9月20日)



北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kiaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(7月～9月分)

◆7月18日【消防操法訓練大会】

▼今年の北海道消防操法訓練大会の競技はポンプ車操法の部。ポンプ車を操作しながら、標的の火元に対し、いかに早く、正確に、安全に行動するかが、採点のポイントとなる。今回の操法訓練大会には、全道から14チーム、上川管内を代表し、中川消防団の皆さんが出場した。中川消防団の



中川消防団が参加した消防操法訓練大会

皆さんは、指定された時間よりも早く放水を達成し、動作も正確であり、キビキビとした姿に感動したところであり、上位入賞が期待された。しかし、結果は残念ながら6位にとどまったが、その姿には大きな拍手が送られた。なお、今年の優勝は平取消防団で、準優勝は白糠消防団、優良賞は鹿追消防団と北斗消防団であった。優勝した平取消防団は、今年11月に開催される全国大会に出場することとなった。

◆8月7日【豪雨被害調査】

▼先日の豪雨で被害を受けた士別市温根別町と幌加内町を視察し、実態を調査してきた▼8月4日から5日にかけて集中豪雨に見舞われた道北地方では、幌加内町及び名寄市で173ミリ、士別市で130ミリの降雨により、床上浸水や床下浸水、田畑の冠水など、甚大な被害となった。今日は、

士別市温根別地区と幌加内町を視察し、その実態を現



幌加内町の冠水したソバ畑を被害調査

地で視察しながら、今後の対策を協議させていただいた▼特に、農地で甚大な被害となった幌加内町では、3200haのソバ畑のうち、310haが冠水し、全農地の約1割が被害に遭ったという。その原因は、北海道管理の河川改修が行われていない影響によるものと思われることから、守田秀生町長は「是非とも、雨竜川の改修に向け早急に取り組んで欲しい」とのお話しをいただき、その思いをしっかりと受け止め対応したいと思っている。

◆8月11日【戦争と郷土】

朗読の会▼今日は、美深町郷土研究会(佐久間昌美会

長)及び美深町公民館の共催による、「戦争と郷土」朗読の会を拝聴してきた▼美

深町郷土研究会は、「戦争体験者の証言及び手記並びに会員の聞き取りによって、53編を研究紀要「戦争と郷土」としてまとめた(中略)

▼朗読の会では、安川としおさん(士別市)、田中真奈美さん(美深町)が担当した。谷口和子さんの手記を担当した田中さんは、「姪の手記を読んだ時は、涙が止まりませんでした。谷口さんの思いを伝えるため、何

度も読み込み、谷口さんに成り代わって読んだつもりです。そして、髪型も、当時の谷口さんのようにお

か



戦争遺品なども展示された「朗読会」

つぱにしました」と語ってくれた。

【7/21/14】

▼「提案のあった2つの条例については、道議会での議論や道民のご意見を伺いながら、しかるべきタイミングで提案したい」▼これは、平成20年6月28日の支庁制度改革条例が可決された記者会見での知事の発言。2つの条例というのは、「地域振興条例」と「新しい自治の形づくり条例」。知事は、この2つの条例を約束し、多くの反対を押し切り支庁制度改革を行った▼この発言から6年2ヶ月が経過した今議会で、「新しい自治の形づくり条例」を地域振興条例の中に組み込む改正案を提案した。私は、「しかるべきタイミングとは今なのか。知事が想定していた提案タイミングとはいつか」などと詰め寄ったが、真摯な答弁はなかったところだ▼道民を欺き、知事の座にしがみつこうとする姿が、とても可哀想にも見えるのは私だけだろうか。(ゆうこう)